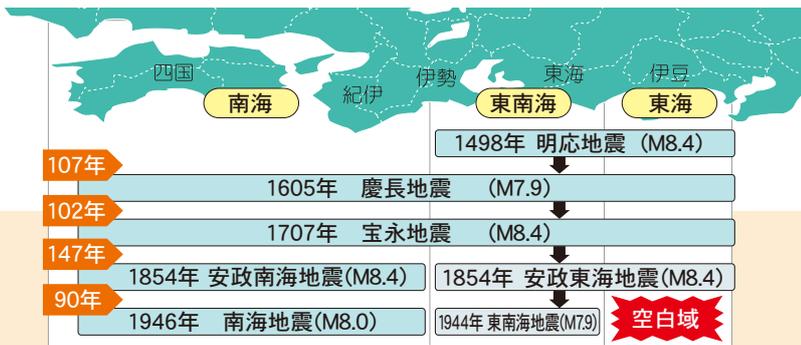
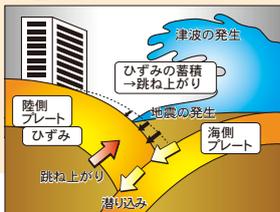


家族で学ぼう 東海・東南海地震

東海・東南海地震が起きる理由



海溝型地震のしくみ



- ①海側プレートが陸側プレートの下に潜り込む。
- ②陸側プレートの先端部にひずみが蓄積する。
- ③ひずみが限界に達したとき、陸側プレートが跳ね上がり地震が発生する。

日本列島の太平洋側では、プレートの潜り込みによる地震がくり返し起こっています。過去の記録によると、東海から南海道にかけての海域では、100年から150年周期でほぼ同じ規模の大地震がくり返し起こっていることがわかりました。

ところが、東海地震の震源となる駿河湾から御前崎までは、1854年の安政東海地震の後、約150年にわたって大地震がないのです。このため地震のエネルギーが蓄積され、プレートの歪みが限界に達しているといわれています。



地震はほんとに起こるの？



くり返し大きな地震が起きているんだ

わたしたちにできる備え

我が家でも実践しよう！



1 自宅の耐震診断を

第一に、自宅の耐震診断を行い、必要な耐震改修を行いましょう。特に昭和56年5月以前に建てられた旧建築基準の木造住宅は、ぜひ耐震診断を行ってください。各市町村では無料耐震診断を行っており、診断の結果に応じて耐震改修費の補助を受けることができます。

4 家庭の防災会議を

第四に、家族が離ればなれになってしまったときの避難場所や集合場所を話し合っておきましょう。各市町村では学校や公民館等を避難場所に指定しています。

2 家具の固定を

愛知県ではインターネットで、東海・東南海地震が発生した時の皆さんのご自宅の耐震の度合等を調べることができる「愛知県防災学習システム」を用意しています。一度試してみてください。



5 地域の防災訓練に参加を

最後に、地域の人々と交流を深め、地域で行われる防災訓練に参加してみてください。大きな災害時には、消防や警察等の公的機関による救助活動がすぐに行われない場合もあります。そのような時、地域の皆さんが消火・救出活動をし、被害を最小限にとどめるよう協力することが必要なのです。

地域では多くの自治会や自主防災会が中心となって防災訓練を実施しています。開催時期は地域によって異なりますが、回覧等で訓練のお知らせを目にした際には、参加してみてください。

地域の取組紹介

豊橋市の弥生町防災会は平成11年に発生した竜巻災害を契機に、地域防災力向上に努めてきました。会長の小山さん、防災委員会委員長の滝川さん、防災指導員の竹内さん、根上さんとお話を伺いました。

— 弥生町防災会の特徴 — 平成11年に豊橋市内で発生した竜巻は、弥生町を縦断し、大きな被害を与えました。その時、町内の防災会が機能しなかったことを反省点とし、防災企画委員会現防災委員会を立ち上げ、それ以降積極的な活動を行っています。

— 取組 — 平成14年には、豊橋市の総合防災訓練の中で、避難生活体験訓練を行いました。これは木材とブルーシートを使用した仮設テントを設置し、食用油を利用した照明や給水タンク・ハンソリを用いた炊出し等で、災害時をシミュレートし、雨の中「晩過こす」という本格的な訓練でした。

また、地域の防災訓練は毎年実施しています。平成19年からは、町内の弥生病院と連携した訓練を実施しています。病院職員によるトリアージ訓練やAED操作講習等を取り入れ、地域住民と病院が、いざという時に協働できる体制作りを目指しています。

— 活動の秘訣 — 町民が新鮮さを失わないように、防災委員会としては、色々なことを企画し防災活動に取り入れています。大変な事ですが、それによって人が集まり喜んでくれれば、また頑張ろうという事になるわけです。また、そのためには活動ごとに町民にアンケートをとり、良かった点・反省点を活かすように心がけています。



左から根上さん、滝川さん、小山さん、竹内さん



町内の弥生病院と連携して実施した訓練の様子

豊橋市 弥生町防災会

防災会取組紹介ホームページ (html) に詳細を掲載していますので、そちらも参考にしてください。

信 自主防災会

